

経営比較分析表（令和5年度決算）

福岡県地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市立こども病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	25	対象	I 未 訓	救 臨 地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	27,971	非該当	非該当	7：1

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
239	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	239
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
239	-	239

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和5年度全国平均

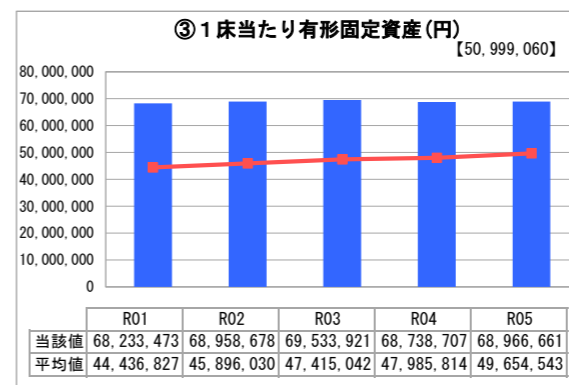
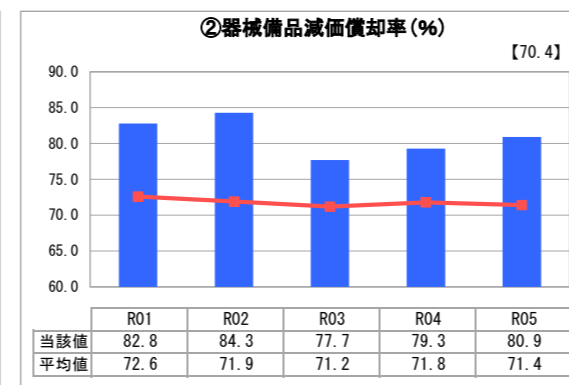
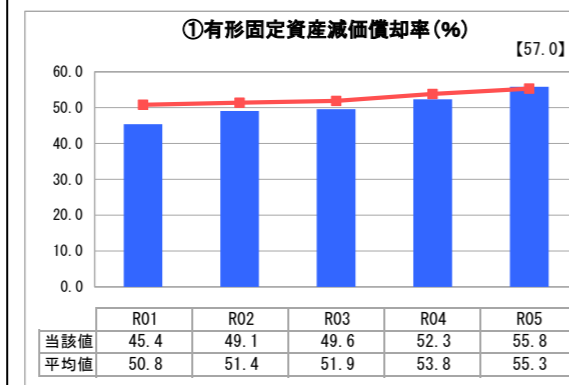
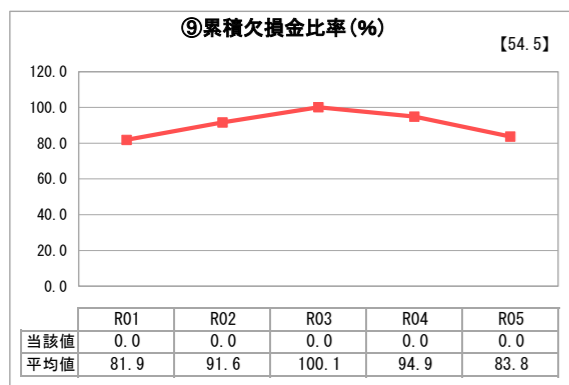
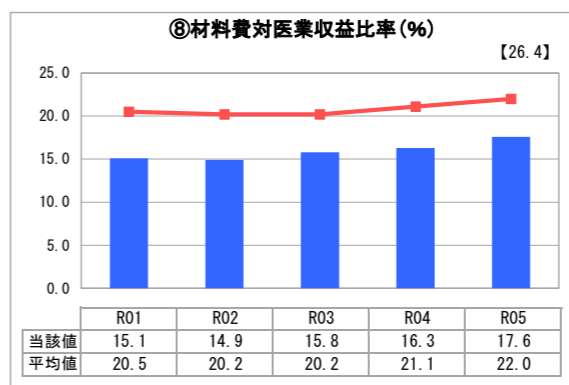
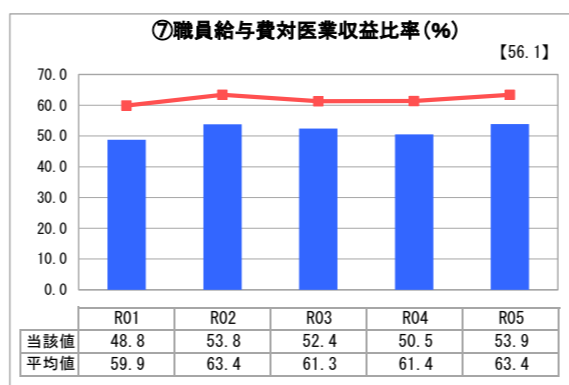
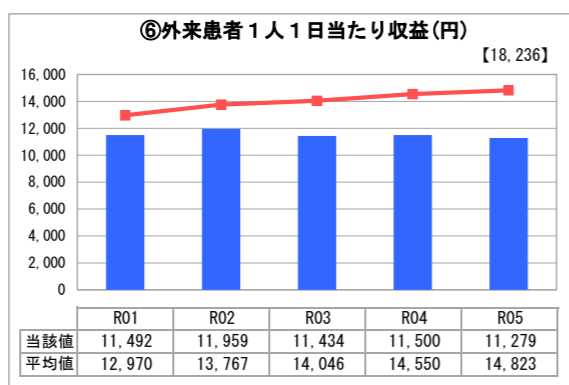
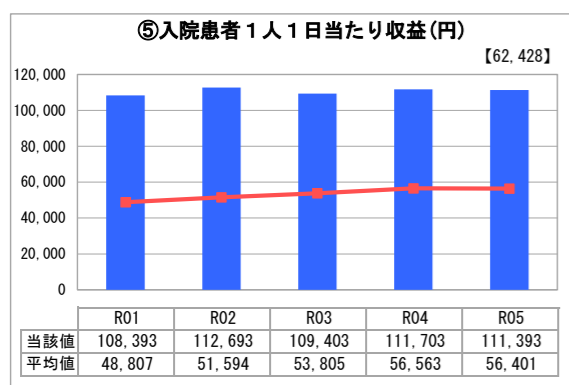
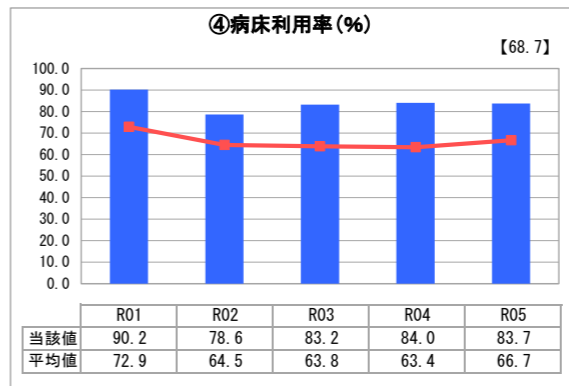
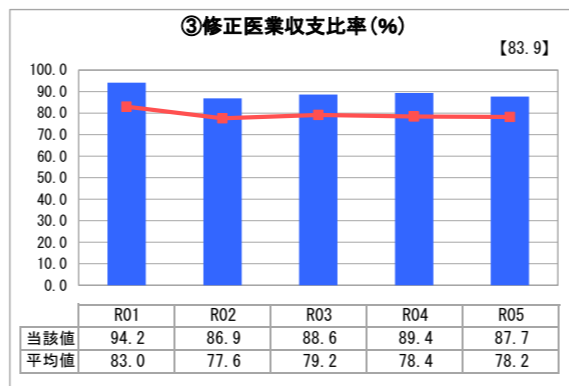
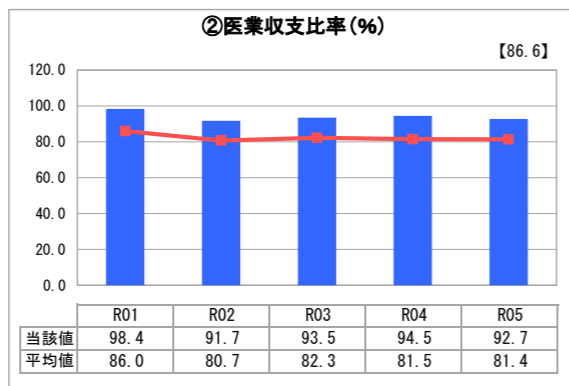
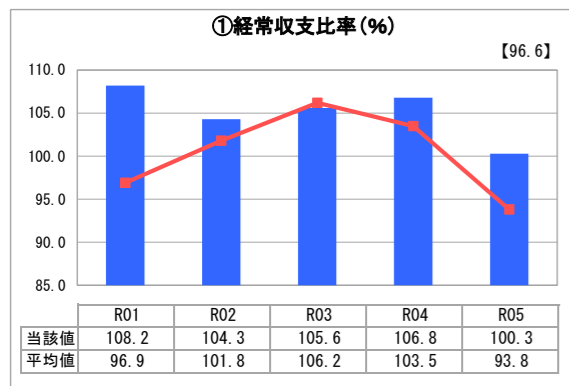
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	年度
-	平成22	-
-	年度	年度

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

I 地域において担っている役割

福岡市における医療施策として求められている、小児高度専門医療、小児救急医療及び周産期医療を提供する中核的な小児総合医療施設として、こどものいのちと健康をまもる役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は令和4年度と比べてコロナ補助金の縮小により類似病院平均値同様に減少しているが、④病床利用率は80%台を維持し、⑤入院患者1人1日当たり収益についても110,000円を超えていることから、②医業収支比率は90%台と、類似病院平均値に比べ高水準を維持している。

⑦職員給与費対医業収益比率、⑧材料費対医業収益比率については、令和4年度に比べ上昇しているが、これは給与費及び材料費の増や、コロナ補助金の減により、収益が大幅減となったことによる。

2. 老朽化の状況について

平成26年11月の新築・移転から10年が経過しており、①有形固定資産減価償却率については、類似病院平均値に近い水準で推移している。また、②器械備品減価償却率については、移転時に更新した医療機器等の殆どが減価償却期を過ぎたことから、類似病院平均値と比べ高い水準となっている。今後、計画的な医療機器等の更新が必要となる。

全体総括

経営の健全性・効率性を表す指標は、類似病院平均値と比較すると、⑥外来患者1人1日当たり収益を除き、良好に推移しており、現在の経営の状況は健全であるといえる。

今後の課題としては、働き方改革に伴うタスクシフトやDX化など、医療環境の変化を踏まえながら必要な医療機能等について、検討を進めていく必要がある。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和5年度決算）

福岡県地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	20	対象	ド透I訓	救臨感地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	15,396	非該当	非該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

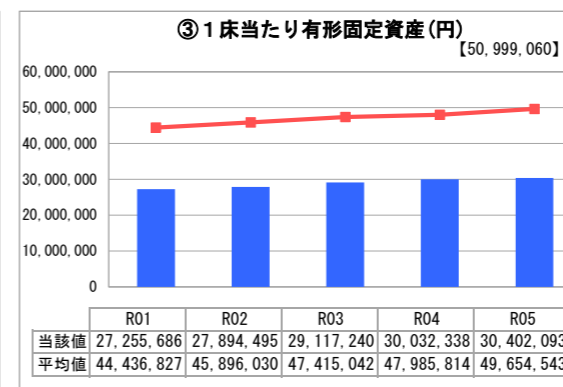
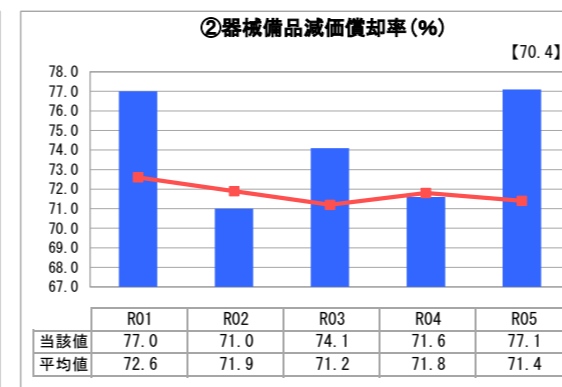
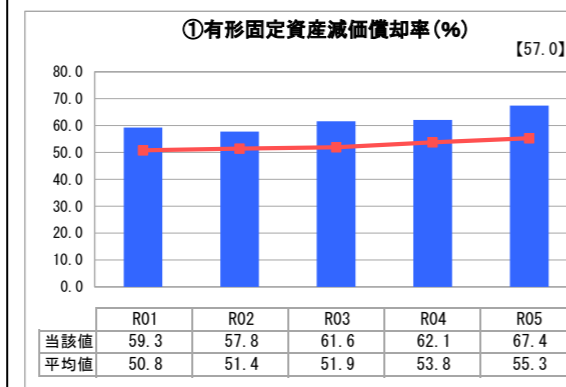
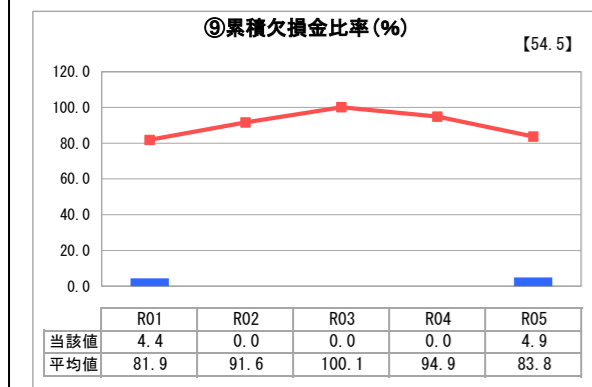
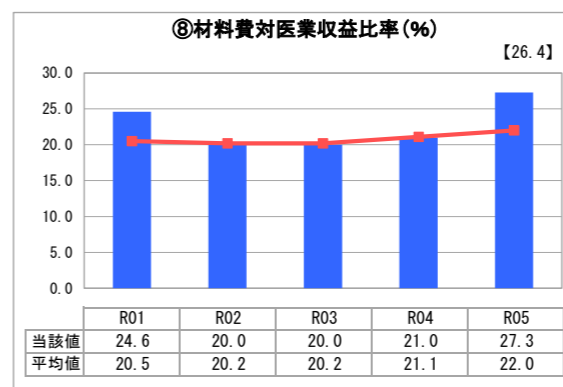
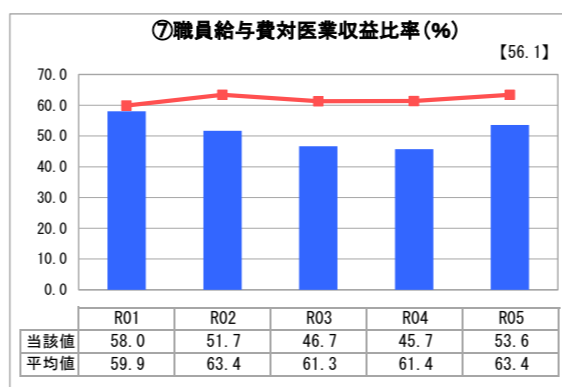
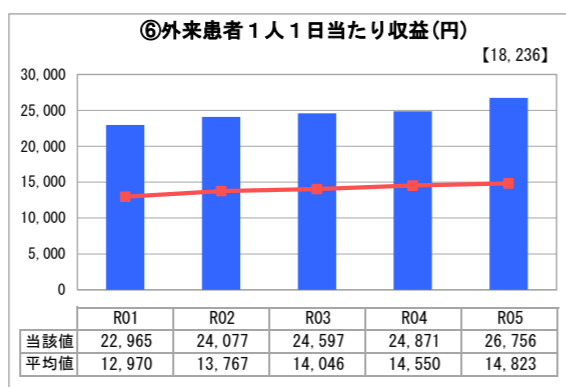
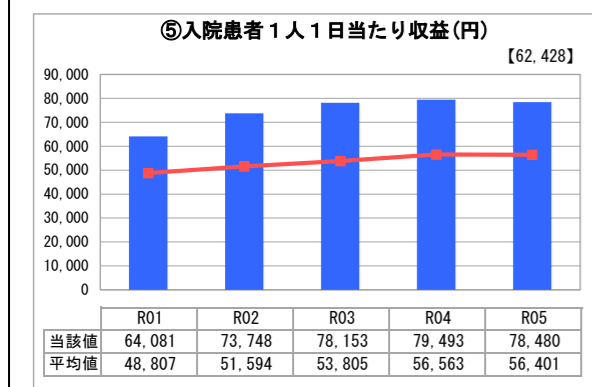
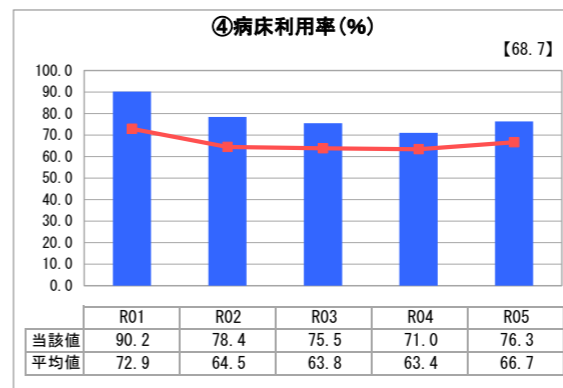
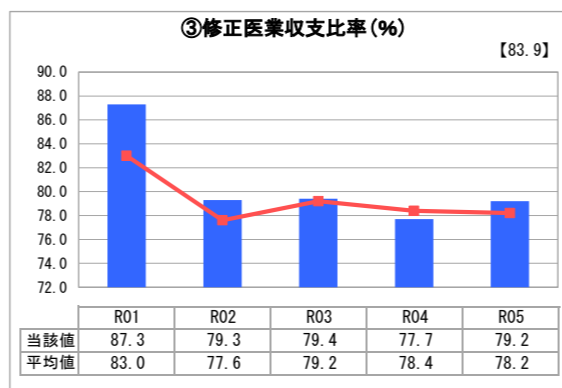
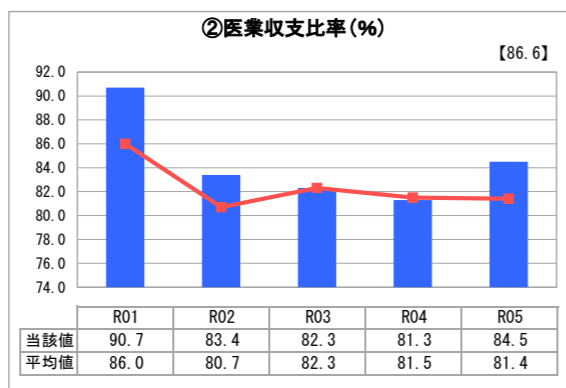
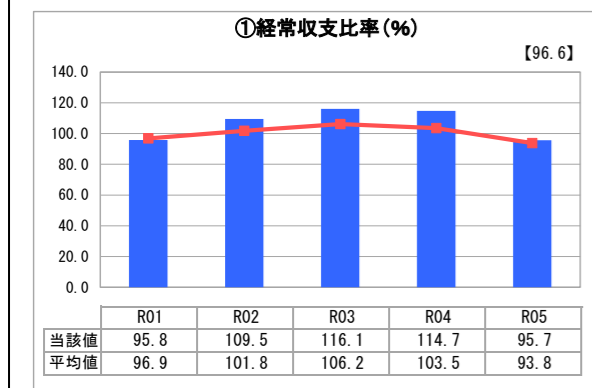
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
200	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	204
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
200	-	200

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	年度
-	平成22	-
-	年度	年度

I 地域において担っている役割

福岡市における医療施策として求められている救急医療、高度専門医療等を提供すること等により、市内の医療水準の向上を図り、もって市民の健康の維持及び増進に寄与する。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

県のCOVID-19重点医療機関として、令和4年度に引き続き9月までは許可病床数の1割弱をCOVID-19専用に確保した。④病床利用率については、年度後半に8割を超える病床利用率となり、令和4年度と比べて5ポイント改善した。⑤入院患者1人1日当たり収益については、高度な手術手技の導入に継続的に取り組んだ結果、70,000円を超える水準を維持している。

なお、②医業収支比率については、令和5年度下半期からコロナの影響が少なくなり、医業収益が増加したことにより上昇傾向となった。⑦職員給与費対医業収益比率については、処遇改善等の給与費の増に比して、医業収益の伸びが追いつかず上昇傾向となった。⑧材料費対医業収益比率については、高額な薬品等の使用量の増加や物価高騰の影響により上昇傾向となった。

2. 老朽化の状況について

病院本館について、平成元年4月竣工から30年余が経過し、減価償却も進んだことから、①有形固定資産減価償却率については、類似病院平均値を上回るペースで推移している。また、②器械備品減価償却率については、年度ごとにばらつきはあるが、令和5年度は類似病院平均値を上回っている。

なお、③1床当たり有形固定資産については、類似病院平均値よりも低額で推移している。

全体総括

COVID-19の5類感染症移行後は入院患者数が回復傾向にあるが、9月までCOVID-19専用に病床を確保していたことも影響し、以前の水準までは戻っていない。医療を取り巻く環境は変化しており、材料費比率、給与費比率の適正化など、取り組むべき課題は多い。

また、地域医療構想及び医療計画において求められる高度専門医療及び救急医療体制を提供するために必要な取組を継続して行うとともに、災害や新型コロナウイルス感染症等の新興感染症の発生、その他の緊急時には、事業継続計画（BCP）に基づき、福岡市及び関係機関との連携の下、市立病院として求められる役割を果たす必要がある。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。